

私が青森県で初期研修を行うことを決めたのは研修医1年目の秋でした。実際に研修を行うのは半年先の翌年6月でありましたが、縁もゆかりもない未踏の地で1ヶ月間の研修生活を送ることに不安を抱いていました。しかし不安とは裏腹に移動日である研修初日を迎え、伊丹空港から飛行機に搭乗し青森空港に降り立ちました。その日はかなりの大雨で気温は10℃を下回っており、研修が始まったことを肌で感じました。バスと新幹線にゆられ五戸総合病院へ到着したのは、飛行機に搭乗してから約5時間程度でした。病院の第一印象は、『大きい』でした。私が在住する大阪には大きい病院は多数ありますが、五戸総合病院には口では説明できない『大きさ』を感じました。

私は外科で研修しましたので、主に腹腔鏡を用いた手術や帝王切開術等の手術や病棟業務に携わりました。その研修期間中で私が一番印象に残った場面は、外科治療ではなく外来診療でした。五戸町唯一の総合病院であるため、町全域から患者様が来院されます。その患者様を診察している中で、五戸総合病院を慕って来られる方が多いと感じました。その理由としては、幼少期から長い間その人の人生を見てきたということが挙げられると思います。分厚くなったカルテは、暮らしの中に共に生き、人の生活から病気、時には不安を取り除き、地域をより良くするように創りあげていく、地域に密着した病院であることを表していると感じました。地域の医療を担い五戸町に根付いている、これが前述した『大きさ』に繋がっているのだと思います。

研修期間は1ヶ月でありましたが、積極的に医療に参加できる機会を設けて頂き、病院業務だけではなく地域医療ならではの診療所での診療や老人ホームへの往診・訪問診療、小学校検診等、貴重な経験をさせて頂きました。多忙な中、研修生活を充実するよう御配慮して頂いた院長先生と事務の方々、熱心に指導そしてサポートして頂いた先生方を含む医療スタッフの方々に御礼申し上げます。

大阪市立大学研修 I コース

松下 和樹 (マツシタ カズキ)